

げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2000 第7号 SUMMER



そろたそろたよ、関取衆がそろた
(アーヤストコ、ヤストコ、ヤストコ、ショ)
角力とるなら、名乗りをあげて
ごへいをかついで、かえらんせ
やぐら太鼓に、パチおと聞けば
今日は初日だ、負けりやせぬよ

県内高校文化部の活動を聞く
「北前船主の館右近家」訪問
特集 福井と恐竜(3)

湧き出る文化よ となり海を成せ '03福井



12年度県内高校総合文化祭 公募ポスター最優秀作
竹内ちひろさん(大野高3年)の作品

高等学校の文化部の祭典、第27回全国高等学校総合文化祭が2003年、福井県で開催されます。
本年度は、この全国文化祭が8月5日から5日間、静岡県で開催され、本県の高校からは、音楽など17部門に363名の生徒たちが参加します。今回、この祭典を目指し部活動に励んでいる生徒たちの声や県高等学校文化連盟が取り組んでいる12年度の諸行事などを特集しました。

第11回 総合文化祭テーマ

海より生まれ 創造の心
空より広がれ 文化の輪

全国高等学校総合文化祭は、文化部のインターハイとも言われ、本県での開催は、一昨年、全国高校文化連盟の評議員会で内定しており、2001年に正式決定されます。この全国文化祭には、パレード、総合開会式に始まり、合唱・吹奏楽などの音楽部門の演奏、美術・工芸・書道などの作品展示や囲碁、将棋、小倉百人一首かるた部門の競技など20部門にわたり、高校生たちの文化活動が発表されるなど全国から1万5千人余りの若人が本県に集まります。

すでに県教委では、準備委員会を設け、その準備が進められています。また、この祭典の主導的役割を担う、県高等学校文化連盟でも、県内高校の文化活動の内容の充実や質的向上を図ろうと大会への諸準備を着々と進めており、このほど、この大会を成功させるため、県内高校生から募集した作品の中から選ばれた最優秀賞テーマ「心の泉より湧き出る文化よ 大河となり 海を成せ'03福井」(大野高3年・松田浩明君の作)を掲げ文化への創造的な人間育成と生徒たちの交流を図る大会の趣旨を盛り上げることにしています。

また、今年も第11回県高等学校総合文化祭を全国文化祭の布石にしようとして「海より生まれ創造の心・空より広がれ文化の輪」をテーマに総合開会式を8月2日、武生市文化センターで開催。9月22日、高校演劇祭を皮切りに、美術・書道・写真・新聞展、かるた、将棋、囲碁大会、音楽フェスティバルなどを開催し、文化部活動の輝きの成果を披露するものになっています。

CONTENTS

- ・高校文化部の活動を聞く…………… P2・3
- ・北前船主の館 右近家訪問…………… P4・5
- ・特集 福井と恐竜(その3)…………… P6
- ・敦賀市立博物館所蔵
近世絵画誌上展…………… P7
- ・福井県指定無形民俗文化財
表児の米…………… P8
- ・12年度応募財団助成事業決定…………… P9
- ・情報ファイル…………… P10・11
- ・財団ふれあい通信…………… P12

表紙の説明

福井県指定無形民俗文化財

相撲甚句

(敦賀市 阿曾)



敦賀市阿曾の利根八幡神社で、毎年9月15日、宮相撲が奉納されます。奉納相撲は前半は平相撲、後半を役相撲と言ひ、中入りの時の余興として力士たちによって踊られるのが相撲甚句です。

この起源は、鎌倉時代から行われてきたと言伝えられています。

踊りは、土俵に力士たちが並び、天下泰平、五穀豊穡、家内安全を祈る約手数が行われた後、音頭取りが登場し、音頭取りのテンポに合わせて踊りが始まります。輪になり、しこを踏みながら豪華な手振り、手拍子で土俵を回り、大踊りからテンポの早い小踊りへと変わっていきます。

表紙の写真は第2回写真コンテスト(ふるさとまつり)で入選した岡本悠久さん(敦賀市 中)の作品です。

「県内高校文化部の活動を聞く」

アンケート結果 生徒回答：28名

質問1 現在の所属部に入ったきっかけは？		
回答	人数	
① 活動内容に興味があったから	6	
② 教諭・先輩・友人等の勧め	15	
③ 入学以前から同様の活動を続けていたので	7	
④ その他	1	
1で①と答えた具体的な理由		
歌・音楽が好きだから	2	
楽器（管・弦・琴）に興味があった	3	
新聞記事を書くのに興味があった	1	
質問2 部活動の平均的な活動時間		
① 週7時間以下	13	
② 週7～10時間	0	
③ 週10～15時間	4	
④ 週15～25時間	9	
⑤ 週25～30時間	2	
⑥ 週30時間以上	0	

15年開催
全国高校
総合文化祭

テーマ

心の泉よ
大河

高校文化部の活動を聞く
全国総合文化祭参加をめざして

今年8月、静岡県で開催される全国文化祭には、本県から過去の大会で最も多い17部門で35校、363名の生徒が派遣されることになっています。

この大会を目指して県内の高校では、それぞれの文化部門で、質の高い発表や演技につなげようと練習に励んでいます。

財団では、この部活動の実態や生徒の声を聞くため、県高文連のご協力を得て、マーチング（福井高）、吹奏楽（福井高、金津高）、合唱（大野高）、オーケストラ（丹生高）、邦楽（福井農林高）、新聞、写真（羽水高）の7部門、6校を対象に、アンケートを行い、その回答と全国文化祭への抱負や意気込みをうかがいました。

文化部に入ったきっかけ

勧誘組と経験・関心組に二分

「現在の所属部に入ったきっかけは」との問いに対し「教諭・先輩、友人の勧め」と答えた生徒が約半数（15人）、次いで「入学前からこの活動を続けていた」が7人、「活動内容に関心があった」6人で、勧誘組と経験・関心組の回答に二分されていきました。具体的な入部の理由として、音楽部では、「歌や音楽が好きだから」「音楽に興味があった」と答えています。

「部活動の平均的な活動時間」の質問では「週7時間以下」が46%（13人）で最も多く、次いで「週15～25時間」32%（9人）、「週10～15時間」14%（4人）、「週25～30時間」（2人）の順で、総体的にみて、ハードな特別より、無理のない適度な練習時間であることが伺われました。



大野高校 合唱部練習風景



丹生高校 オーケストラ部練習風景

全国文化祭への抱負

福井高 吹奏楽部

谷口「美さん」（3年）

他校との交流や演技をみて、自分達ももっと成長させたいと思います。文化祭に参加することによって、マーチングを楽しむということと、本番になれることを目標にし、多くの人が感動できるような演奏をします。

金津高 吹奏楽部

高橋「美さん」（3年）

県代表として、恥ないよう、全国の高いレベルの演奏や音楽への意識、行動を学び、福井の金高のイメージをアピールできたいと思います。そして得た多くの知識と経験を今後の活動に役立てたいと思います。

大野高 合唱部

藤田「美さん」（3年）

大会には、音を外さないよう、今のうちに音覚えて、本番に備えたいと思います。とにかく、気持ち良く、胸を張って堂々とした態度で、少々固々しく歌いたいと思います。

丹生高 オーケストラ部

山下「桐子さん」（2年）

2年になったけど、あまり上手に弾けていないので、全県大会で練習したいです。

12年度全国高校総合文化祭行事			
行事名	開催日程	場所	
開祭大会	11月25日	福井県立総合文化センター	
開祭式	11月25日	福井県立総合文化センター	
音楽フェスティバル	11月26日	福井県立総合文化センター	
アナウンス・番組制作	11月26日	福井県立総合文化センター	
新聞・写真・新聞展	8月26日～10月1日	福井県立総合文化センター	
合唱新人賞大会	10月20日	福井県立総合文化センター	
小倉百人一首かるた大会	9月24日	福井県立総合文化センター	
美術・書道・写真・新聞展	9月25日～26日	福井県立総合文化センター	
邦楽新人賞大会	9月25日	福井県立総合文化センター	
閉祭式	8月26日	福井県立総合文化センター	

もともとレベルアップして足を引く強さがないようにしたいと思っています。ガバルソニー。

羽水高 写真部

藤田「桐子さん」（2年）

初めて全国文化祭に参加するので、分からないことが多いですが、参加する以上生懸命がんばりたいと思います。私の中で、文化祭は静かな印象があるけれど、この大会では、その印象をとりのぞけたいと思います。

大野高 合唱部代表美さん

全国という舞台で歌えることに誇りを持ち、楽しんでほしい。「井戸の中の蛙」にならず、全国の色んな合唱をきくことにより刺激を受けて視野を広げ、更に向上心を持ってほしい。

丹生高 竹編利和先生

丹生高校オケ部は、現在18名、1年を前・中・後半の3シーズンに分けると全総は前半の第二のイベントであり、目標としております。新しく入部した1年生は、かなり困難なところもありますが、ステーション体験として、緊張感等の実感をつかむ良い機会となることを期待しています。

北前船主の館 右近家訪問

河野村

今回「北前船の歴史むら」河野村にある「北前船主の館 右近家」を尋ねました。往時、日本海五大船主として繁栄した右近家の邸宅や庭園などの文化的な遺産や北前船にまつわる貴重な資料に身近かに接して、海と共に生きた「北前船」の歴史と文化の教々を知る事ができました。この機会に当館の概要を紹介することにしました。

北前船時代の 歴史資料館

「北前船主の館 右近家」は江戸後期から明治中期にかけて、大阪と北海道を結んで日本海廻りで、諸地域間の物資の流通や文化の交流に重要な役割を果たした北前船をテーマとした歴史資料館です。

当館は、河野村の旧船主右近権左衛門家12代目当主が邸宅等の管理を村に委ねられたのを機に、建物の公開と同家の廻船経営に関わる資料の展示を目的に、平成2年5月に開館しました。

常設展では、当家の廻船経営に関わる資料を中心に、村内に残る北前船に関連する資料をテーマ別に展示しています。また、コンピュータグラフィックによる展示案内システムを稼働させ、見学者への理解の一助に供しており、年間約3万人の方々が訪れ、関心と人気の高さを伺うことができました。

また、当館では、年1回程度の特別展を開催する一方、隔年毎に、全国の研究者等が集まり海運史の研究と交流を深める「西廻り航路フォーラム」や村民を対象にして学術会「河野座」を開くなど海と共に生きた歴史と文化を学ぶ村づくりの力を入れています。

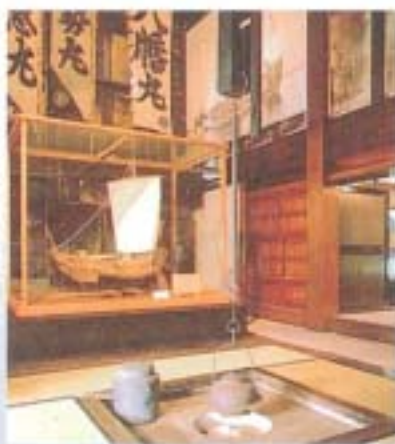


右近家建物の全景(正面)

上方文化を導入した 右近家の建物

右近家の敷地内には、村の旧道をはさんで、山側に本宅と3棟の内蔵、海側に4棟の外蔵が配置されています。本宅は、明治34年(1901)にそれ以前の建物を拡充して建てられました。大工は大阪の人で、上方風切妻造り瓦葺き2階建。内部は檜や檜材の太い柱や米罎屋の松材を用いた平間、黒色漆塗りの床柱に象徴される豪勢なたたずまい中に繊細な造作が見ることが出来ます。

土蔵は、いずれも2階建てで、檜材が多く用いられています。外蔵の南側3棟と北側1棟の間には、建物の長屋門があり、海に



邸宅内(台所、田舎裏の間)

交通ガイド



【利用案内】

開館時間 AM9時～PM4時
休館日 毎週水曜日
8月第1日曜日の前4日と
後3日の8日間
所在地 〒915-1111
福井県南条郡河野村河野2-15
「北前船主の館・右近家」
TEL (0778)48-2196



大林組が設計施行した「西洋館」

向って開かれています。本宅の南側には、山の斜面を背景にして造られた和式庭園があり、そこには、茶室が建てられています。本宅背後の高台には「西洋館」と呼ばれる別荘があります。昭和10年に完成したもので鉄筋コンクリート造りの2階建て。スパニッシュ様式といわれ、内部には和洋折衷で、デザインの完成度も非常に高く、タイルやステンドグラスなど細部への心配りが美を感じさせてくれます。

右近家の歴史

右近家は、11代の先代まで代々権左衛門を名のり、江戸中期から明治中期にかけて大阪と蝦夷地（北海道）を結んで活躍した北前船主でした。最盛期には30数隻の廻船を所有し、幕末には日本海五代船主の一人に数えられていました。日清、日露の戦役には数量を軍用に供しています。因みに旅順港閉塞のため広瀬中佐が乗り組み放棄された櫻井丸は、右近家の汽船の一隻でした。

隆盛を極めた北前船も明治20年代に入ると次第に衰えを見せ始めましたが、右近家では遑早く時勢を察し蒸気船を導入して近代船主への脱皮に成功しました。

さらに海運業を続ける一方、最も関係の深い海上保険業への進出をはかり他の北前船主等と共に明治29年「日本海上保険株式」を創立。その後昭和18年に至り太平洋戦争下の政府の方針に従い企業合同により「日本火災海上保険株式会社」として現在に至っています。

河野浦と海運

河野・今泉浦は、昔から武生（府中）・河野・今泉、敦賀、京都を結ぶ海陸交通の要衝として栄えました。府中からの登り米は鹿嶋街道（西街道）を経て、河野・今泉浦から船で敦賀へ、そして陸路京都へ運ばれました。

江戸時代における日本海海運は、今日、「北前船」という言葉でよく代表されていますが、目立って活躍するようになったのは江戸時代後半を過ぎてからです。それまでの間は近江商人による荷所船と呼ばれる廻船で日本海運の主力を担っていました。18世紀の半ば、宝島から天明期になると松前蝦夷地における近江商人の地位が低下し、北前船の買積み商いが徐々に活況を呈することになり、このチャンスを生かして、右近権左衛門家や中村三郎右衛門（三之丞）家をはじめ船主連の多くは、大海原に進出し、幕末から明治にかけて本格的な北前船の全盛期に入ったといわれています。

神国丸の模型



右近家持船の主な寄港地

明治21年(1888)、右近家本丸の航海(明治21年「諸国巡回船」より)

- 下り 3月13日(大阪出港)
- 4月27日(函館入港)
- 上り 6月11日(小樽出港)
- 9月 3日(大阪入港)



北前船の航海と経営

北前船の航海は、北海道～日本海沿岸～大阪を結ぶ西回り航路を往復するのが一般的でした。

大阪・瀬戸内地方から日本海方面へ向うことを「下り」、その反対を「上り」と呼びました。「下り荷」は大阪や瀬戸内の酒・塩・砂糖や木綿・煙草・紙などの雑貨類、小浜や敦賀の縄・蓆、新潟や酒田の米、「上り荷」は蝦夷地の鱈・昆布などの海産物が中心でした。

また、北前船の多くは、各地を寄港しながら、さかんに積荷の売買を行いました。遠隔地間の商品相場の違いを利用して差益を得るため「運賃積み」より「買積み」の方に力を入れたので、一時に大きな利益を得ることができたといわれています。

往時を物語る 数々の展示物



北前船の航海と経営の面では、右近家の持船が寄港した各地の港の風景写真が掲示され往時を偲ぶ貴重なものです。

航海用具では、航路を定めるに用いた船磁石や透視鏡、海運経営面では、積荷の売買取引の証といえる仕切り状や相場書、れいてん（小秤）、銭升、船積簿等が陳列されています。また、取引先の間屋や商家から船主に送られた各種の引札も展示され、北前船の交易が文化の交流に果たした役割を偲ぶことができます。

特集

福井と恐竜 (その3)

県立恐竜博物館オープン

7/14 勝山市長尾山総合公園内

地球環境史の学習の場としても期待



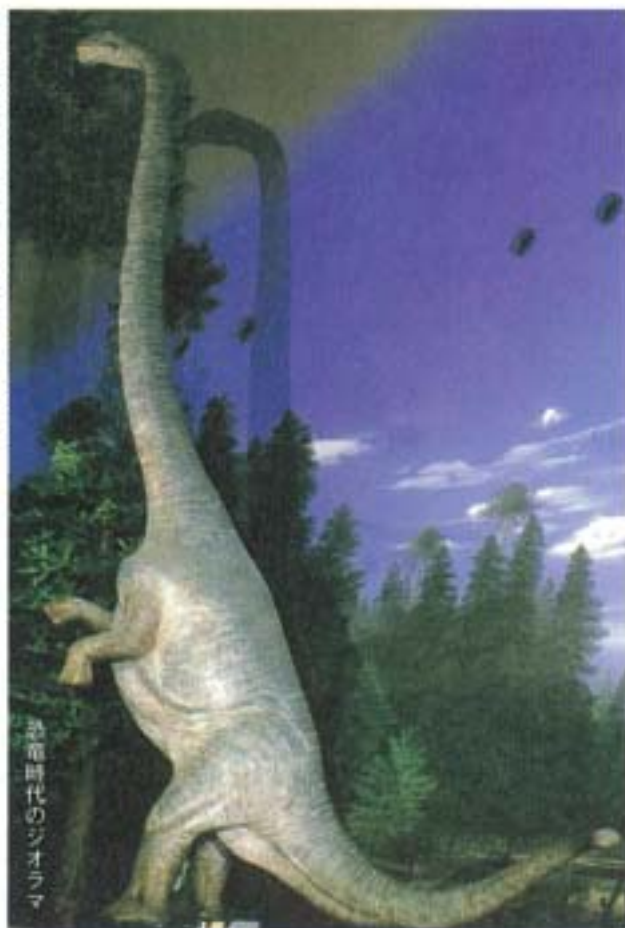
県立恐竜博物館の外観

今、話題を集めている「福井県立恐竜博物館」がようやく開館しました。平成元年度に始まった福井県恐竜化石調査事業の集大成としての博物館建設であったとも言えます。

恐竜博物館の建物は、展示室であるドーム状の「恐竜ホール」と、普及や標本保管、管理機能の「ウイング棟」からなっています。延べ床面積は15・000平方メートルで、展示面積は約5,000平方メートルと全国的にも大きな施設といえます。3階のエントランスから入館すると、白を基調としたホールが広がり、入館者はエスカレーターで、一気に地下1階へ導かれます。エスカレーターに乗っている間、人々は太古の時代へと日常の生活感覚を変化させることができます。地下の「ダイノ・ストリート」は、地下にもぐり恐竜化石が埋積した地層の中を散策する気分を誘います。

最 初に人々が目にするものは、ポーン・ベッド(骨の地層)で、ここには恐竜化石が埋積が再現され、肉食恐竜の骨が埋まっています。ポーン・ベッドを見ながら解説を聴くと、そこには1階の恐竜の世界が広がっています。また、巨大な卵型のホールの内部が一望でき、ここには、アジアを中心とし世界中から集った30数体の恐竜骨格とともに、産卵や探餌恐竜たちの生活が説明されています。

な かでも、23メートルの肉食恐竜マメンチサウルスの骨格は、人々の目を集めてその目を離せません。また、巨大対面スクリーンに写し出されるコンピュータ・グラフィックス(CG)恐竜画像は、恐竜が動き回り、あたかも恐竜たちの格闘の中に立っているような錯覚さえ覚えます。さらに奥へ進むと、シュノサウルスやオソサウ



恐竜時代のジオラマ

ルスなどの恐竜ロボットが迎え、再現された実物大の森林も圧巻です。福井を中心とした手取層群の恐竜化石や、日本各地で発見された恐竜化石も整然と並んでいます。また、恐竜化石を埋蔵する「地層」を学ぶための、「地球の科学」コーナーが用意されています。

ス ロープをつたって恐竜ホールを俯瞰しながら2階へ上ると、生命の歴史が展示されており、ここでは、地球環境の変遷のなかで生物たちが堂々と築いてきた歴史が物語るられています。まさに生物と地球の共生の絵巻物語りといえます。

恐竜博物館の展示全体をとおして、地球環境史の学習の場として多くのことが学べると思います。是非博物館へきていただき、家族で地球の過去を学び、地球の未来を考える機会にしたいだけば幸いです。博物館の周辺では7月20日から恐竜エキスパートが開催されており、博物館とはひと味違う楽しみも味わうことができます。

「文・福井県教育庁文化課参事

理学博士 東洋一氏」



全長23メートルのマメンチサウルス

敦賀市立博物館所蔵 近世絵画誌上展

2

敦賀市立博物館では歴史民俗資料館（昭和53年～平成4年）時代より、当市にゆかりのある作家の近世絵画を系統的に収集し多くの逸品を所蔵しています。
本誌では、前号に続き、今回は4点の近世絵画を選び紹介することになりました。



紅葉白鹿図
円山応挙筆

紅葉下にたたずむ白鹿を、写実に徹した画法によって描いています。紅葉の幹には随所に青苔を表わし、葉の描写は細緻で、熟視すると一葉ごとに朱色の濃淡を付け、葉脈を描き込み、葉縁のギザギザまで克明に描写し、応挙の写生に徹している姿を垣間見ることが出来ます。白鹿は古来、春日明神の「お使い」として神聖視されていますが、鹿の顔だちにも品格が漂い、獣毛は細筆で緻密に描かれています。

絵画は、江戸中～後期の作。
円山応挙は、丹波国穴太村で出生。円山派の始祖、明和3年（1766）応挙を名乗る。寛政7年（1795）63歳で死去。



菊に鶏図
原在中筆

潤潤の菊花を背景に雛鳥を従え野辺に遊ぶ鶏を華麗に描いています。雄鳥が捉えたバッタと思われる昆虫をねだる雛鳥の可憐な描写は絶妙といえましょう。その写生技法は精緻で、流麗、簡直な細筆をもって羽の毛筋まで丹念に描き込み、背景の菊花も「没骨画法」で克明に描写しています。

作品は江戸中～後期の作。
原在中は、寛延3年（1750）若狭・小浜藩医師、原性圃の子として出生。狩野派の石田郷丁や円山応挙に師事。中国の名画や大和絵にも研鑽の端を広げ、京都御所や公家の御用を勤め、天保8年（1837）88才で死去。

船舳図
幸野樸嶺筆

例年7月17日、京都、祇園大社の祭礼に巡行する山舳の中で著明な船舳の図です。

船舳は神功皇后伝説により舳全体を船形にしたもので、2基ありましたが1基が幕末に焼失。この焼失した帆旋の船舳を描いたもので、祇園の山舳研究に貴重な資料となっています。

作品は、明治14年（1881）の作。

樸嶺の父は敦賀の出身。幼少の頃より円山派や四糸派の絵画師に師事、京都蓮学校教員、各種展覧会の審査員を歴任。51才の時、東本願寺大師堂壁画「聖地蓮花図」を製作。明治28年（1895）52才で死去。



雪中鴛鴦図
長沢芦雪筆

水際には菖の鴛鴦が寄り添うように憩い、松の枝からの落雪が、静寂にわずかな鼓動を伝えているようで、寒椿の赤色が印象的です。この図は芦雪の初期作に属し、後世に見られる奔放さはうかがえませんが、師の応挙譲りの写実を承継して繊細華麗に描かれています。

作品は江戸中～後期の作。
長沢芦雪は、宝暦4年（1754）丹波篠山に出生。円山応挙に師事。南紀、尾張などの名刹や京都御所の障壁画を描き、寛政11年（1799）46才で大阪にて客死。



シリーズ
ふくいの
伝統芸能

福井県指定無形民俗文化財

表児の米

丸岡町北横地

丸岡町北横地に所在する布久漏神社に伝わる表児の米神事は、毎年9月15日に同保存会の手で盛大に行われます。
この神事は、当地方の農民が五穀豊穡と感謝の志を表す伝統行事です。当区では、この行事を後世に伝承しようと平成11年、「表児の米研修会館」を建設し、芸能演技の向上と後継者育成に力を入れています。

「表児の米」の由来

表児の米の神事は、十郷用水（九頭竜川）鳴鹿大堰から取水し坂井平野の農地に灌漑する用水路の恩恵を受ける流域各地の農

民達が、毎年秋の例祭に感謝の意を表する行事として、その年の初穂を糶米し、集まった米を焼き、蒸して神社に供え、そのお下がりを持参者に分け与えたのが原形といわれています。今のような形の神事は少なくとも江戸時代には出来ていたと思われ、文化元年（1804）に完結された「古今類聚越前国誌」に「本郡横地村にふくる堂」という祠あり、8月14日を祭日とす。表児の米と云う故事あり、恐らくは是なるべし。」と記載されています。

伝承行事のあらまし

この神事は「礼拝」「おたしより」「米揃ち」「盤持ち」「米とぎ」「盆叩き」「奉納踊り」など若者連を中心とした保存会あがりの行事が夜の12時頃まで続きます。翌、15日の早朝、若者たちは揃った米を「ますやー、ますやー」と呼びながら村中に配ります。

主な神事の進行を追ってみました。
【集合、礼拝】9月14日夜7時過ぎ、集合太鼓を合図に保存会役員、神事を担当する若者連が社殿前に集合、身を清め、神事の

無事進行を祈願します。若者連の服装は、揃いの白シャツに袴、それに黒帯をしめる姿で参加します。

（おたしより）礼拝お説きを済ませた一行は研修会館へ。会館へ着くと太鼓の乱打で農気をつけ、肩を組み輪を作り、伊勢首頭に合わせて一斉に飛び上がり床を踏みならします。音調が切れると肩を組み合ったままで輪の内側に向けて寄せ合い、輪が潰れると誰かを捕まえて崩壊させます。

（米揃ち）米揃ちは、6人、8人、10人、12人と人数を増しながら白の回りを取り囲んで行います。碓子唄に合わせて杵を順番に一つずつ白の中に打ち込みます。特に6人揃ちは唄に合わせて白のまわりを回りながら揃ちという高等技術が必要で、

（盤持ち）米揃ちの合間に盤持ちが行われます。若者連が白を差し上げる力比べともいべきものです。白を横に差し上げる「両手差し」、白の底部を鏡に見立てた「鏡差し」、白を片手で差し上げる「片手差し」などがあります。

（盆叩き）米揃ちが終了した後、土間に敷いてあった盆を一枚一枚叩いて揃ち時に飛び散った米や糠を払い落とす作業です。2人が片手で盆の縁を引っ張り合うように持ち、もう一方の手で持つ女竹の棒でリズムに乗って叩きます。

（奉納踊り）米揃ちが終わると神社にもどり無事神事の役目を果たした喜びを若者たちは輪を作り踊りで表わします。最近では、「横地ヨイトコセ音頭」で奉納踊りが行われています。

（米揃ち）神社で初穂米奉納が行われている間に会館では、参拝者に揃ち表児の米の準備がすすむと、ゴルフボールぐらいの大きさに固められた初穂米のだんごが買に入れて参拝者に届けます。



布久漏神社前で行われた「米揃ち」



新会館で披露された「おたしより」



白を横に差し上げる「盤持ち」



リズムと波で2人が演じる「盆叩き」



新築なった研修会館

12年度応募・財団助成事業決定 県内文化団体などへ123団体 2,569万円

財団では、平成12年度助成事業について本年3月から5月1日にかけて、財団助成事業取扱要綱及び12年度応募要領に従って助成対象団体を公募してきました。

その応募の申請を5月1日をもって締め切り、4月6日と5月30日の2回にわけ、審査会及び選考委員会を開催し、慎重な審議の結果、122団体に対し、総額2,419万円を交付することを決めました。

その内訳は、事業別には次表のとおりです。なお、助成対象事業の「推薦制」によるものと「公募方式」によるものとの分類では、推薦制45団体・1,205万円、公募方式77団体・1,214万円となっています。

昨年度と比べ21団体・368万円の増になりました。

また、15年度、本県で開催される全国高等学校総合文化祭に向け、準備活動を進めている県内高校総合文化祭等を育成支援するため、別途に県高校文化連盟に助成金を支給することにしています。

大 別	事 業 名	団体数	助成金 万円
地域文化の振興事業	郷土の歴史・文化保存伝承事業	27	5,610
	市民文化団体等活動事業	26	4,650
	国際文化交流事業	5	910
	文化のまちづくり活動事業	9	2,000
	文化アドバイザー派遣事業	4	1,680
市民の創造事業	ボランティア団体活動事業	10	1,100
	各種文化サークル活動事業	16	1,600
	環境保全等地域づくり事業	2	300
民間文化財の活用事業	芸術公演開催事業	3	1,300
	市民参加型芸術文化活動事業	19	4,740
	新人芸術家の創作発表活動事業	1	300
計		122	24,190
県内高等学校総合文化祭等育成支援事業		1	1,500
合 計		123	25,690



O・T・A・I・K O'99
チャンピオン大会＝埴田町



合唱指導者を招いて開かれた
第10回コーラスワークショップ＝県立音楽堂



敦賀市文化協会、創立40周年記念で
「おくのほそ道」文学碑を建立

※平成11年度に行われた上記の文化事業に財団も協賛し、それぞれ助成支援を行いました。

バルーンを使って親子で楽しむ
福井ドレミの会



時々、私の下手な歌声で、ドレミの会でやったことをすることがあります。むりじいすることなく、今後息子子のペースでドレミの会を楽しんでいきたいと思っています。」と会に寄せる期待を語ってくれました。

福井ドレミの会（代表＝鯖江市・宮川深雪さん）では、毎月第一土曜日の午後、県社会福祉センター又は鯖江市アイセンターで「感動を伝え、共に楽しむ音楽」を目指し、故 加賀貞吉朗先生（1967年、日本音楽療法協会設立者）メソッドの曲を中心に、障害を持つ子供達や音楽の好きな親子らがボランティア会員と一緒に楽しんでいます。

この会は、県内で日本ミュージック・ケア協会が行う音楽療法の技術を学んでいる人達が互いに連携を取り合い、実践していく場を作ろうと、平成8年4月に結成されたボランティア団体（現在、会員20名）です。会では、年一回（今年6月24日）専門講師を招き、音楽療法をより高めるための技術習得と広く一般の人々に関心を深めるセミナーや親子で楽しめるクリスマス会などを開いています。

障害を持つ息子といつも「ドレミの会」に参加しているN君のお母さんは「ドレミの会での全部の曲には参加できませんが、息子なりにお気に入りの曲があります。家でも時々、私の下手な歌声で、ドレミの会でやったことをすることがあります。むりじいすることなく、今後息子子のペースでドレミの会を楽しんでいきたいと思っています。」と会に寄せる期待を語ってくれました。

がんばっていますボランティア
「ボランティアと一緒に
感動を伝え楽しむ音楽を」
福井ドレミの会

財団文化講演会

アグネス・チャンさん
ユニセフ活動を訴える

敦賀

5/27

財団では敦賀市連合婦人会などの後援（日本赤十字社）を得て、5月27日、敦賀市総合福祉センター・あいあいプラザで、歌手アグネス・チャンさんを招き、「みんな地球に生きるひと」を演題に文化講演会を開きました。会場には、開演前から列をつくり約300人が集まりました。

講師は、子供時代やアイドル時代の反省のエピソードに始まり、世界平和活動の中で多くの人たちとふれあった感動的話をとりあげ、特に、中国、東南アジア諸国やアフリカの飢饉地帯を訪れたときの子供達や難民の生々しい現状を語り、平和と人権の大切さを強調していました。

最後に「天国と地獄」の差のない天国の世界を目指し、戦争や災害にあった国の子供の栄養と健康を守るユニセフ活動への援助の手を訴える一方、歌手活動への意欲も示し、イギリスの歌手が歌った幸せを求め一節を美声で披露。会場から大きな拍手が湧いていました。



世界平和と人権を訴えるアグネス文化講演会—敦賀市あいあいプラザ



「登美子の歌」のコーラスが響く中、歌碑に献花する参加者たち

第5回「若狭を謳う」

4/8

登美子の歌碑除幕

小浜

小浜市出身の歌人・山川登美子をたたえる文化イベント、第5回「若狭を謳う（うた）」（同実行委員会主催）が4月8日、小浜公園で、「登美子の歌碑」の除幕式が行われ、これを皮切りに、同市文化会館などで、日本歌壇の第一人者馬場あき子さんの記念講演会や和泉流狂言、短歌大会など多彩な文化行事が繰り広げられました。

歌碑の除幕式には、しの笛奏者、福原一筆さんの調へに合わせ、登美子の母校梅花女子大学合唱部と小浜婦人会による「登美子の歌」のコーラスを披露。歌声の響くなか、出席者全員、白ゆりを献花して、登美子の薄命の生活を偲んでいました。歌碑は、高さ1.6米の花風岩に「髪ながき少女と生まれしる言合に 願は伏せつつ 君をこそ思へ」と 与謝野鉄幹を思慕して詠んだ歌が刻まれています。

花柳流和孝会

4/9

45周年記念舞踊公演

福井

花柳流和孝会（会員75名）の創立45周年を記念する舞踊公演が4月9日、福井市文化会館で華やかに開かれました。

新たに名取りに襲名した6人の会員の披露を兼ね、19番の演目で公演、舞踊ファンを魅了しました。また、同会の会主を務める和孝さん自身も大和楽「序の舞」をはじめ、京都からお祝に駆け付けた2代目花柳双（そう）さんと千秋楽で長唄「時雨西行」を共演し、伝統の名演に、会場を埋め尽くした観客から大きな拍手が湧いていました。

同会は、日本舞踊を代表する会派として、県内外で幅広く活動しており、今回の記念公演は16年ぶりの大掛かりで、華やかな舞台に観客は、伝統と美の舞に堪能していました。



花柳双さん（右）と共演して華麗な舞を披露する花柳和孝さん（左）

19回 愿泉書道展

5/26-28

力作136点を展示

福井

書道研究・愿泉会（会長・中島牧泉氏）の第19回書道展が5月26日から3日間、県立美術館で開かれました。

会場には、会員97人の作品を中心に、136点が展示され、漢字、かな、蘭和体、てん刻など漢詩や短歌・時文からさまざまなスタイルで書かれた力作が並べられ、会場を訪れた人たちは、数々の力作に目を凝らしていました。



力作が並ぶ第19回愿泉書道展

同会は、書技の向上と親睦を図ることを目的に活動している書道研究会でもあり、中央の謹慎書道展や読売書法展で多数の入賞、入賞者を出しています。財団では、この書道展に後援し、唐詩を行書体で美しい筆致で書きあげた大西美穂さん（福井市）の作品に、げんでんふれあい福井財団賞を贈りました。



富沢会長指揮で三曲の邦楽大会奏

琴や三味線 優雅な響き

福井

県三曲会「邦楽の会」

5/28

流派をこえて三曲(琴・三味線、尺八)の愛好家がつくる福井県三曲会(会長、富沢和山氏)の第23回邦楽の会が5月28日、福井市文化会館で開かれました。
演奏会には、「若湯水」「暖帳の秋」「硝子の屋敷」など現代邦楽の作品発表や日本固有の伝統古典10曲を会員グループ別に厳かに演奏されました。
招待演奏では、尺八の川村泰山さんと三弦の福田千英子さんがゲスト出演、古典「七小町」「五段碁」を披露し、最後に、出演者総員55人により、「冬の日(2)」を富沢会長指揮のもとに、パーカッションなどを交えた大合奏を繰り広げ、約800人の聴衆から大きな拍手が送られました。

夏物60点を披露

福井

若手有望デザイナー
村上裕香さん創作発表

5/28



夏物60点を次々と創作披露した村上さんのファッションショー。福井南郵便局

平成5年、フクイレディース・ファッション・コンペで入賞、パリ、コレクシオンで研修を重ねるなど若手服飾デザイナーとして注目を集めている村上裕香さん(福井市堂島町)のファッションショーが、5月28日、福井南郵便局で開かれました。
ショーは、one's own(自分自身のもの)をテーマに13人のモデルによって夏物60点を次々と発表。シンフルな作品には、麻混、綿ストレッチ、デニムなど、カジュアルな素材に流行の透ける素材を組み合わせて味の深さを表現し、デザイナー性のある作品では、大胆な面白さや美しさを出すなどファッションの感性を見事に表した創作発表に、集った約200名のファンから大きな拍手が湧いていました。
財団では、若手で有望な新人芸術家を育成するため創作発表活動に助成制度を設け、村上さんは、この制度の2人目の対象者に選ばれています。

全国大会を目指し熱唱

福井



県内からも12団体が参加し、美しい歌声を会場に響かせたおかあさんコーラス

おかあさんコーラス中部大会

7/2

第23回全日本おかあさんコーラス中部支部大会(県合唱連盟など主催)が7月2日、福井市の県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」で開かれました。中部7県から41団体が出場し、8月に香川県高松市で開かれる全国大会を目指してハーモニーを競いました。

大会には地元福井県から12団体が参加し最初にステージに立ったコールあすわ(福井市)は「夕焼小焼」など3曲を合唱、まるおかローレルは、同町出身の作曲家今川節の「安寿と厨子王」、三方町女声コーラス・コロボックルは「組曲純文賛歌」など郷土にちなんだ曲を披露したほか、クラシックや黒人霊歌など幅広いジャンルの曲の歌声を会場に響かせていました。

審査の結果、コーラス華「HANA」(福井市)など4団体が中部代表賞を受賞、全国大会出場に選ばれました。

格調、躍動感ある力作

福井

50回記念県現代書作家展

6/15~18



第50回記念県現代書作家の特別賞を厳選する審査会

県内の11団体、564人の書作家で構成されている県書作家協会(会長村崎雅氏)主催の第50回記念現代書作家展が6月15日から18日まで県立美術館で開かれました。会員から526点が出品され、漢字、かな、調和体、近代詩文、てん刻など多種多様な書風の作品が並べられ、いづれも格調、躍動感ある力作に会場を訪れた多くの書道ファンは書独特の世界に浸っていました。

展示会に先立ち14日には、出品された45歳以下の作品83点について特別賞を選考する審査会が開かれ、厳選の結果、大山礼子さん(福井市)ら11人が選ばれ、18日、ユアーズホテルフクイで開かれた同展50回記念祝賀会の席上で表彰されました。同協会では、半世紀にわたる福井県書道文化の歴史と会員全員参加の作品集を50回展記念誌として発刊し、21世紀に向けた書道研さんの意欲を示していました。

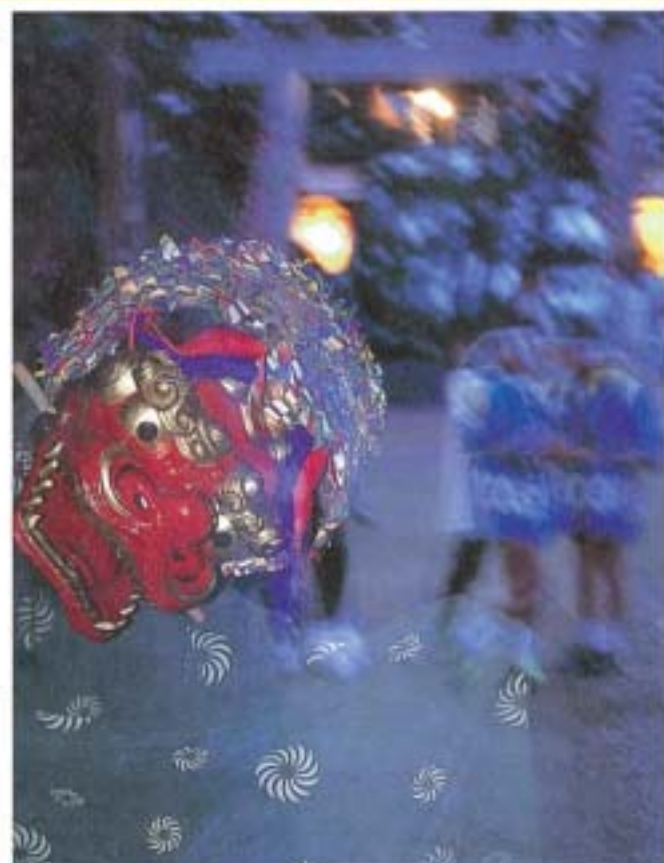
第3回 2000 ふるさと大賞 写真作品募集

テーマ 美しく、たくましい21世紀の福井 「ふるさとの花・木」

県花「水仙」県木「松」をはじめ花や木にまつわるふるさとのイメージを表現した作品を期待しています。

締め切り **12月15日(金)** 当日消印有効

主催：(財)げんでんふれあい福井財団
 後援：福井県／福井県教育委員会／敦賀市／敦賀市教育委員会
 (社)福井県文化協議会／福井県高等学校文化連盟／福井新聞社
 福井放送／福井テレビ
 協賛：福井県カメラ商組合／富士写真フィルム(株)／(株)福井フジカラー



第2回ふるさと大賞作品 「こしの大瀬秋祭り」松本 寿雄 氏

部門 学生部門(高校生以上)・一般部門・一般女性部門の3部門

資格 1) 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること
 2) 写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと

作品の規格 カラー・モノクロで四つ切り又は四つ切りワイドの単写真(学生は六つ切り可)

応募先 1) 〒914-0051 福井県敦賀市本町2-9-16 (財)げんでんふれあい福井財団
 2) 福井県カメラ商組合加盟店及び県内フジカラー取扱店

審査員 審査委員長：八木隆氏(写真家)ほか

結果発表 平成13年1月下旬
表彰 平成13年2月7日(ふるさとの日)

ふるさと大賞 1点……30万円
ふるさと賞 3点
 学生10万円1点／一般20万円1点／女性20万円1点
優秀賞 6点
 学生5万円2点／一般10万円2点／女性10万円2点
入選 35点(記念品)
 学生5点／一般20点／女性10点
佳作 35点(記念品)
 学生5点／一般20点／女性10点

財団イベント INFORMATION

恐竜エキスポふくい2000協賛 ミュージカルショー	「がんばれ ダストバスターズ」 「VIVACE (ヴィヴァーチェ)」	7/27(木)～31(月)	勝山市長地山総合公園会場 メインステージ
財団協賛 親子で楽しむ打楽器博物館	ディンバニ：豊原 淳 マリンバ：神谷 哲子 ほか	8/24(木)	福井市・ハーモニーホールふくい
狂言を楽しむ会	人間国宝 茂山千作師1門	10/19(木)	敦賀市・プラザ萬象
第4回 福祉寄席	上方落語家桂文齋・内海英華	10/24(火)～26(木)	敦賀市・武生市・勝山市・福井市・丸岡町にある県内6福祉施設
げんでんふれあいコンサート	前田康男とウインドブレイカーズ ゲスト 岡川 孝子	11/3(金)	福井市・ハーモニーホールふくい
文化講演会(福井商工会議所・文芸春秋・財団共催)	講師：平岩 可枝(作家) 岡川 佐和子(作家)	11/15(水)	福井市・福井商工会議所コンベンションホール

財団ホームページ アドレス <http://www.Genden.or.jp>

「げんでんふれあい福井」第7号
2000年7月発行

(発行) 財団法人 げんでんふれあい福井財団
 〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9番地16号(日本原子力発電株式会社敦賀地区本部4階)
 TEL.0770-21-0291 FAX.0770-21-9070